土木会通信 第15号　令和2年8月8日

岡田昌彰先生の著書『日本の砿都～石灰石が生んだ産業景観』（創元社）が2019年度日本都市計画学会「石川奨励賞」に選ばれましたので、その内容をご紹介いただきます。

一昨年の日本造園学会賞、昨年の日本観光研究学会賞に続いての受賞であり、心よりお慶び申し上げます。

近畿大学理工学部社会環境工学科

教授　岡田　昌彰

この度、拙著「日本の砿都：石灰石が生んだ産業景観（テクノスケープ）」（創元社）が2019年度日本都市計画学会の石川奨励賞を受賞しました。この本は一昨年の日本造園学会賞、昨年の日本観光研究学会賞に続いて３度目の受賞となります。今回もこのような大きな賞を頂けたことを光栄に感じると同時に、近大土木会の通信記事に掲載頂けることは大きな喜びです。

日本が唯一自給できる地下資源、石灰石。黒いダイヤ（石炭）に比して「白いダイヤ」の異名をもち、日本各地にその鉱山町＝砿都が形成されてきました。本書では、全国30を超える砿都で徹底した現地調査を行い、各地に育まれた「工業風土」の検証を試みました。

そこには壮大な石灰・セメント工場や採掘場，専用貨物鉄道，ベルトコンベアなどによって特徴的な産業景観（テクノスケープ）が形成され、カルスト地形や鍾乳洞など石灰岩由来の自然景観と共存していること、さらには石灰石にまつわる民謡，祭事，食文化，信仰など個性的な地域文化が育まれていることがわかりました。石灰石と国歌君が代との関連，宮澤賢治や原敬，渡辺崋山といった各界の名士たちと砿都との意外な関係，あるいはウタキや蒼白の海，製糖業など、「琉球石灰岩」由来の地域資源に富む沖縄のもつ砿都としての素顔など、新たな発見と数多の感動がそこには待っていました。

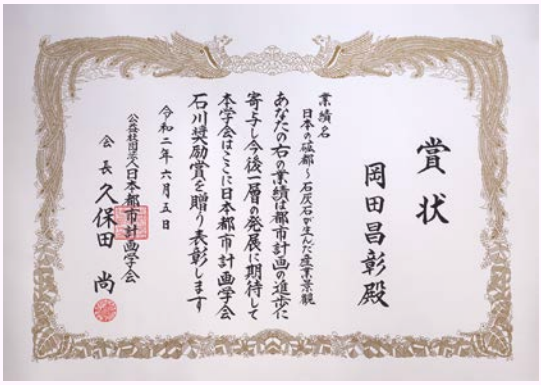
国土の近代化とともに世界に類を見ない戦後の高度経済成長を下支えした石灰・セメント産業。砿都には、明治の産業革命と同等以上の文化的価値や観光対象、あるいは都市資源としての可能性があると思います。いわゆる「高度経済成長遺産」の１つとして、さまざまな分野に新たな視座を加え得るでしょう。その背後には、ときに軋轢を生みながらも共存共栄を果たしてきた企業と自治体、そして市民らの逞しき姿があったことも忘れてはならないと思います。

この砿都研究は、2000年に都市計画学会論文集（日本都市計画学会）にて発表した拙稿「秩父武甲山の景観変容とイメージ変遷に関する研究」を皮切りに始動しました。実際、その当初からこのテーマはその先どう転ぶかもわからず、達成の見込みもそう簡単には立ちそうもない代物研究であり、「未知なる山」のような世界でした。一方で、砿都の産業景観（テクノスケープ）に文化的アイデンティティを見出す視点など皆無に近かった時代にありながらも、各地の公民館や企業、自治体関係者、小中学校などヒアリング調査の先々で「私たちのまちには良さがある」という地元の声をお聞きするたびに、この未知なる山に登り続けることの意義を強く確信し、勇気づけられました。自分が登りたい山に登り続けるプロセスには苦労の倍以上に発見の喜びが確実にあることを、特に学生や若手の研究者，実務家の方々に本書を通して少しでも伝えることができればと思っています。

本書の出版後、近畿大学環境まちづくりプロジェクトの先生方、特に当学科の竹原幸生・松井一彰・麓隆行教授，柳原崇男准教授にはいち早く応援を頂きました。本書の内容は、その後早稲田大学での講演会や太平洋セメント株式会社の20周年記念シンポジウム、研究助成を頂いた石灰石鉱業協会での講演会，八戸市や須崎市など

国内各都市や台湾土木学会，同国文化部（日本の文化庁に相当）での講演会のほか、日本経済新聞などメディアでも大きく取り上げて頂きましたが、全国のどこよりも先駆けてここ近畿大学にて出版座談会を催して頂けたことに深く感謝しています。また、研究の遂行過程では当学科きっての博学者である高野保英准教授からいくつか重要なヒントを頂きました。特に本書第 25 章で展開される高知県の石灰石とジョン万次郎の軌跡を結びつける痛快なストーリーは高野准教授の助言無しには達成し得なかったものです。さらに、セメント・コンクリート分野で活躍する麓隆行教授には関係者も何人かご紹介頂き、効果的な情報収集も実現しました。その他ご協力いただいた本学ならびに土木・石灰石業界の関係者の方々に、この場をお借りして深く感謝申し上げる次第です。

なお、本書の内容の一部は石灰石鉱業協会の協会誌「石灰石」にて好評連載中です。今月号（2020 年 7 月号）でちょうど 20 回目の連載となりますので、機会がありましたらご笑覧頂ければ幸いです。また、「日本の砿都」は近畿大学図書館はもちろん、全国各地の公立図書館にも蔵書がありますので、是非ご感想などもお寄せ頂ければ幸甚です。



日本都市計画学会石川奨励賞　賞状とメダル（近畿大学理工学部ウェブサイトに掲載）

本書の表紙（左）と砿都の風景（右：大分県津久見市）

在外研究だより

松井一彰先生は、現在、ウィスコンシン大学で客員教授として在外研究に取り組まれています。そのご様子をお伝えいただきました。

米国における在外研究の報告

近畿大学理工学部社会環境工学科

教授　松井　一彰

近畿大学内の在外研究員制度を利用して、2019 年 9 月より 2020 年 8 月の予定で米国ウィスコンシン大学ミルウオーキー校に滞在しています。大学のあるミルウオーキー市は、ミシガン湖の畔にある人口約 59 万の街です。ウィスコンシン州最大の都市ですが、日本の都市と較べるとかなり閑散と感じます。農業や酪農が主な産業の地域であり、ミラーに代表されるビール醸造所と、オートバイメーカーのハーレーダビッドソンの本社がある街としても知られています。

こちらでは、メインキャンパスから離れた湖畔の研究所にて、下水中の微生物群集動態に関する研究に取り組んでいます。都市部では、下水道や都市河川のような人造の水域環境が急速に拡大していますが、河川や湖沼と違って下水の生態系はほとんど解明されていません。そこで都市地下に拡がる人工生態系を解明し、近年問題になっている抗生物質耐性細菌の動態を明らかにするための共同研究を進めています。

世界的なコロナウィルス感染症の拡大を受けて、米国でも 2020 年 3 月半ばより外出制限令が発令されました。大学施設も閉鎖されましたが、受け入れ先の研究室が下水中のコロナウィルスを検出するプロジェクト研究を急遽立ち上げたため、予定していた研究は何とか継続する事が出来ました。

研究所とその前に設置された雨庭。土と植生で雨水を濾過し、ミシガン湖の汚濁を防ぐことを目的としています。

人種差別に対する抗議運動。この日は千人以上が集まりました。マスク姿も目立ちます。明るいですが、時間は夜の 20 時です。

今回の在米では、世界的な感染症蔓延と人権運動の拡大という大きなイベントに遭遇する機会を得ました。感染症蔓延に関しては、米国では楽観的なニュースが多いのに対して、日本からは悲観的なニュースが多く聞こえてきたのが印象的でした。実際の感染者数、死者数、離職者数からみると真逆の反応のように思えます。またミネソタ州ミネアポリス市の事件をきっかけに拡がった人種差別への反対運動は、様々な差別を見直すきっかけとして大学や学協会にも急速に拡がっています。これらのイベントを通じて刻々と変わる社会を感じながら、固執せずに柔軟に学ぶことの大切さを改めて痛感しています。

スポーツ観戦やビアガーデンのような、アメリカ生活の日常を今回体験できないことは少し残念です。今後も大阪とミルウオーキー間での下水空間を対象とした共同研究が続くので、これらの体験については次の機会にとっておきたいと思います。

卒業生便り

自治体（中核市）技術職員として三十数年・・・

八尾市役所　危機管理監

宮田 哲志（昭和 60 年卒）

近大土木会の皆様、八尾市危機管理監の宮田です。学生時代は中野ゼミ（土質）に在籍し卒業研究は補強土を勉強しました、卒業後はゼネコン勤務を経て現在八尾市で勤務しております。

日頃から大変お世話になっております東山先生から依頼を受け、僭越ながら寄稿させていただきました。

先ずは、卒業研究時のエピソードからお話します。

水槽で実験中、なかなかボイリングが起こらないので、食事にいってしまい戻ってきたら想定以上に激しくボイリングが発生し、水槽内の実験器具（ストレインゲージで歪を測定していました）が粉々に・・・。中野先生にこっぴどく叱られたのを昨日のように記憶しております。

～“危機管理”がなってなかったなあ、と今になって、反省しております・・・～

当時の土質研究（中野ゼミ)室は、現在建築学部の「おしゃれな」事務室になっており隔世の感は否めません（当時が懐かしいです、33 号館エントランスなど建築学部の建物になっているようですこし悔しいですね・・・)。都市を便利に安全にするのは土木の力です、建築学部を目指す高校生は是非土木に興味を持ってもらいたいです（自治体でも土木職は大きな存在です)。

ゼネコンでは宅地造成が主な仕事でした、八尾市奉職後は下水道整備、道路・河川整備、都市計画事業等々、都市の利便性と安全性を向上させる様々な施策に携わってきました。昨年度は都市整備部長として、土質ゼミの先輩である、藤井寺市の西野副市長さんや後輩の野口君と総理官邸にて菅官房長官に都市計画道路促進要望も行いました（かなり緊張しましたが・・・)。様々な良い経験をさせていただいております。

今年度からは、市長直轄の危機管理監として八尾市の危機事象をマネジメントする仕事に携わり、新型コロナウイルス対策関連の業務も所管しております（早く終息して欲しいです)。

今、振り帰って、仕事として自治体技術職員を選択し正解だったと断言できます。そう思えるのは、仲間達の存在です。

中核市である八尾市の約 160 名の土木技術職員が一丸となって事業に取り組むという素晴らしい環境の中で過ごせていることがとても幸せだと実感しています。その中核を担うのが、60 名を超える近大（土木・社会環境学科）卒業生です。

さらに、米田先生、東山先生と都市基盤施設の維持管理等で連携させていただき（後輩の深江さんの努力のお陰です、深江さんありがとう)、都市計画や景観の審議会では岡田先生にお世話になるなど、卒業後も近大と一緒に仕事が出来ている幸せを体感しております。

在校生の皆さん、一生の仕事として選択するには八尾市はジャストサイズの自治体だと思います、先輩も沢山います、近年は近大卒の女性土木職員も多く入庁されています。

☆近大土木カップルも誕生しております☆(これは余計な話でしたね・・・)。
是非、八尾市を就職先の選択肢の一つに加えてください。
最後に、先生方や大学関係者、卒業生の皆様（先輩・後輩）方にお世話になり、今日の私があると思います。感謝の気持ちを忘れず、八尾市を便利で安全で、そして賑わいのある都市にすべく、もうひと頑張りします。
乱筆乱文にて失礼いたしました、皆様ありがとうございます。

大阪交通道路室道路整備課

筒井　啓太（平成26年度卒）

私は平成26年度に社会環境工学科（福祉環境計画学研究室）を卒業し、平成27年度より大阪府庁に勤務しております。大阪府には、平成25年夏にインターンシップで２週間、大阪府富田林土木事務所でお世話になりました。様々なご縁があり、平成27年度からの４年間は富田林土木事務所松原建設事業所に配属となり、新設道路の整備を中心に仕事をしておりました。平成31年度からは交通道路室道路整備課(現在入庁６年目)に勤務しており、各整備路線の予算管理や、国等の関係機関との調整業務など、大阪府の道路行政に幅広く携わっているところです。

最初に配属となった松原建設事業所では、主に新設道路を整備する業務を行っており、測量・設計業務や工事等の発注業務から日々の関係者調整、現場監理や地元対応など幅広く業務を行っておりました。とある路線では、配属当初はまだ懸案だらけであり、供用開始までに課題がある状況でしたが、先輩方のご指導のもと、発注業務から現場の細かな仕上げまで皆で議論し、関係者とも密に調整を重ねた結果、年度末には一部区間の暫定供用を迎え、府庁４年目には無事に全事業区間の供用を迎えることが出来ました。完成後には、ご迷惑を多々おかけした地元の方々より「良くなった」や「ありがとう」と声を掛けていただいた際は、本当に今日まで頑張って良かったと心からやりがいを感じた瞬間でした。長年かけ、沢山の人々が携わってバトンを繋ぎ、地図に載る一つの道路を造ることは大変魅力的であり、素晴らしい経験が出来たと感じております。供用開始に先立ち実施した開通式典では、国会議員や府議会議員をはじめ、地元市の市長や自治会の方々など、関係者に幅広く参加いただき、盛大に執り行われ、生涯忘れることのない一日となりました。

大阪府では近畿大学卒業生（土木職）で構成される「ひょうたん梅土会」といった組織があります。近年は継続して複数人が入庁するという喜ばしき状況が続いており、現在では58名もの卒業生が現役で働いております。年２回程度は懇親会を開催し、親睦を深めているところですが、同じ大学出身である縦や横の繋がりというものは、仕事を進めるうえで非常に重要であり、困ったときはお互いさまと支え合いながら日々楽しく仕事に励んでおります。

私は道路関連しか業務経験はないですが、大阪府では大阪の大動脈となる道路の整備や管理を行っており、大阪に住む身としても、大阪がどんどん良くなることに携われるのは大変魅力的であると感じております。大きな仕事に携わることができ、かつ楽しく働ける職場ですので、学生の皆さまにも就職先の候補の一つとして是非、考えていただければと思います。就職先に悩んでいるならば、実際の現場を見てから判断した方が良いので、面倒くさいと思わず積極的にインターンシップへの参加をお勧めいたします。最後になりましたが、私自身も大阪府で勤務する数多い中の一人として、少しでも大阪が良くなるよう、引続き精進して参りたいと思います。

土木会活動案内

役員会書面議決

令和２年度役員会は新型コロナの感染予防のため、書面による議決とさせて頂きます。役員の皆様にはご不便をお掛けしますが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

キャリア支援講演会開催案内

令和２年 10 月 10 日(土) 午後１時 30 分～午後３時 30 分に Zoom によるオンラインキャリア支援講演会を実施します。15 程度の団体・企業からの参加を予定しており、卒業生に講演頂き、在学生へのキャリア支援をお願いしています。

多数の学生参加をお待ちしています。

交流会開催中止

例年、キャリア支援講演会後に開催しておりました『交流会』は、新型コロナウィルスへの感染予防のため、中止とさせていただきます。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

【編集後記】新型コロナウィルスへの感染予防のため、交流会の開催は残念ながら中止せざるを得なくなりました。次年度には、また多くの卒業生にお集まりいただき、交流を深めていただけるようご参加をお願い致します。

会員各位におかれましては、名簿登録情報に変更がありましたら、メールにてご連絡くださいますようご協力をお願い申し上げます。

また、卒業生からの近況報告など「卒業生だより」に掲載する原稿を募集しています。

近畿大学土木会事務局
〒581-0811　八尾市新家町 8-23-1　東山教授室内
TEL06-4307-3553
E-mail:dobokkai@civileng.kindai.ac.jp